

# 歩兵第16聯隊の奮戦記録

元新発田駐屯地援護室勤務 佐藤 和敏

日清戦争とは明治27年～28年の戦役で、今から120年前の出来事になります。開戦の原因などは諸説ありますので、省略させていただきますが、歩兵第16聯隊は創設以来初の出戦となりました。当時の記録が極めて乏しく、満足のいく内容ではありませんが地方の歩兵聯隊の参戦記録として紹介致します。

明治27年9月25日、第2師団（仙台）に動員が下令され、隷下であった新発田聯隊の第4代聯隊長、福嶋大佐以下の将兵は直ちに出征準備にとりかかりました。わずか3日目の9月28日には応召を完了し、10月3日、町裏練兵場（現在の新発田南高校裏一帯にあり、6万2500坪余りで長さ約600メートル幅約400メートルを有していた）において野戦隊の武装検査を実施し、「この間、猛烈なる教練を実施して戦闘能力の増進を計った」とあります。

動員下令1ヶ月後の10月26日、第2軍（大山巖大将）に編入され、新発田兵営を出発し、郡山より汽車で11月6日広島に着くとあります。車両もなく交通網が未発達時代に、僻地新発田の地から遠く広島の宇品港までどのように移動したのか興味のあるところですが、その前に当時の交通網を検証してみたいと思います。

明治24年9月1日には上野－青森間の東北線は全通しましたが、新潟県においては明治26年、上野－高崎－長野（碓氷峠経由）－関山－直江津間が全通しました。新発田に最も近い駅として、明治30年11月20日、沼垂駅が開業（私鉄の北越鉄道で後の信越本線）。一ノ木戸（三条市）間が開通し、明治31年によりやく直江津まで開通しました。

このことから日清戦争開戦時、広島へ行くには部隊を直江津まで移動させるか、あるいは福島に移動させるかの択一でした。距離はほぼ同じですが、2師団隷下であったためか聯隊は福島の郡山駅からの汽車移動をしています。実に広島まで11日間の行程になります。その理由として郡山駅までは行軍で移動するしか方法がなかったためです。

移動間の状況が分かる記述がありますが、日清・日露の戦役に軍人として参戦し、108歳（全国2番目の長寿）の天寿を全うした佐藤増太郎氏（現在、新発田駐屯地に白壁兵舎記念碑がありますが、昭和44年5月、佐藤氏が99歳の時に建立）によると、郡山までの行軍間あらゆる戦闘を想定し、戦闘訓練をしながらの行軍であったと記されています。

ここで宇品港出港後の戦闘の一端を紹介します。

明治28年1月10日、威海衛占領の目的で宇品を出港し、同14日、清国大連に集結。19日出港し三東省栄城湾東端に上陸するも、この夜暴風雪で前哨部隊の過半数が凍傷になり重傷者数1名を出し兵卒1名凍死する。

1月24日、栄城を発し威海衛に向かい前進。

1月28日、師団の前衛となり威海衛方向に前進。亭子齋付近に宿営し敵の偵察。第3大隊を温泉場付近に出し前哨となす。

1月29日午前9時、歩砲連合の敵兵が我が前哨線を襲撃、暴風雪、面を打ち敵情の察知するにたがわず前哨第3大隊は苦戦。第2大隊を増援し軍参謀の偵察掩護に任じていた第1大隊もこの敵の右翼を攻撃。敵兵退去を始めた時に午後零時15分なり。

他の戦史には26日～30日、栄城県に入り旅団の前衛となり、第3大隊を前兵として温泉場付近に進出、敵歩砲連合1000と銃火を開く。対戦3時間にして敵は退去。折からの悪天候で大風雪となり照準も出来ないほどであった、の記述もあり。

1月30日、第3旅団の前衛となり、温泉場を発し楊家屯付近の敵を撃退追撃し海岸に達したとき、敵艦より猛烈な砲撃を被り楊家屯付近に退去する。この戦闘における戦死者40名、負傷者52名を出す。

1月31日、楊家屯を発し敵を追撃。

2月1日、羊亭集付近において敵の後衛と衝突し、これを撃退。ここに宿営退陣し第1中隊を威海衛の偵察として派遣、翌2日、第2大隊を増発し正午威海衛に達し、諸砲台を占領した。

2月17日、威海衛陥落。

2月27日、さらに奥深く侵攻し守備していたが軍の後衛となり威海衛に退却する。

2月28日、威海衛出港し、旅順港に上陸。將家屯付近にて宿営。

聯隊はその後、金州の守備に任じ、10月1日大連湾から乗船し、台湾の馬公湾に集結し、台南へ向かう。途中、敵の抵抗を受け戦闘となるが、これを撃退。10月21日、台南に入りじ後守備し、明治29年4月11日、平安において乗船。19日、宇品港に着き郡山を経て第3大隊は5月1日、その他は4日に新発田に凱旋した。聯隊の戦死者47名、負傷者75名、病疫者226名。5月8日平時編制に復すとある。

(以上「歩兵16聯隊史 明治17年～明治35年」より引用)

復路もおおむね逆順で、行きも帰りも郡山からの行軍になった。しかるに越佐健児の健脚ぶりがうかがえる史実でもある。

なお、歩兵16聯隊史は新発田駐屯地 白壁兵舎史料館にて展示していますので、興味のある方はぜひ足をお運びください。